



■調査目的	中学生・高校生・高専生の意見を各種計画の策定や若者・子ども施策の参考とするために実施。
■調査期間	令和5年7月14日～7月26日
■調査方法	オンラインアンケート googleフォーム利用
■調査対象者	市内の中学校・高校・高専に通学する生徒・学生 7,235人 (内訳)中学生2,955人・高校生3,802人・高専生(1～3年)478人
■有効回答数	合計2,552人(回答率35.3%) 中学生1,151人 高校生・高専生1,401人
■公表	令和5年11月13日(月) 市ホームページ

I. 若者の定着について

1. 愛着度

全体の84.3%が鶴岡を好きと回答。

- ・好きな点は、食べ物と自然環境を挙げる人が特に多い。
- ・嫌いな点は、遊べる場所・買い物環境・交通の便といった不便が多い。

2. 地元回帰意識

地元回帰希望者は全体の36.6%。

- ・進学や就職に近い高校生・高専生では40.1%が市外に住むことを希望。地域を離れる理由として、不便さのほか、他地域を経験したいという回答が34.8%見られる。

3. 希望する職業

全体として医療関係の希望者がトップ。

- ・男性では、スポーツ選手、公務員、ITエンジニアの希望が多い女性では、医療関係、デザイナー、接客業、理美容業の希望が多い。

4. 進路(高校生・高専生のみ回答)

進学希望者は66.5%、就職希望者は28.1%であった。

- ・卒業後の庄内地域への就職希望者は24.9%であった。理由は実家の近くで生活したいからや地元が好きだからが上位。

II. 市に求める施策について

5. 重要視する施策

全体の61.8%が買い物や遊び場を増やす施策を希望。

- ・子育てのしやすさ改善や事故や犯罪・災害の予防などが30%を超える。高校生・高専生は公共交通の充実についての回答が多い。

6. 取組の認知度

・中学生のユネスコ食文化創造都市の認知度は66.0%。

- ・高校生・高専生も64.8%と比較的高い。
- ・SDGs未来都市の認知度は約50%。
- ・日本遺産は中学生61.9%、高校生・高専生58%。

III. 若者の居場所について

7. 居場所(高校生・高専生のみ回答)

放課後の居場所としてカフェやファミレスのほか、駅前の利用が多い。

- ・利用目的では友人とのおしゃべりのほか、勉強の場、電車やバス、家族の迎え待ちが多い。
- ・Wifiや電源等デジタル機器の設備の充実要望が多い。

8. 図書館利用

図書館の利用率は、中学性ともに28.5%、高校生・高専生28.0%。

- ・高校生の利用目的は、65.3%が勉強するため。
- ・利用しない主な理由は、遠いことや本を読む習慣がないこと。

9. 遊び(余暇の過ごし方・場所)

スマホやタブレットを使ったゲームや動画鑑賞が特に高くデジタル環境の需要が高い(中学生89.6%、高校・高専生87.1%)。

- ・高校生・高専生では、カラオケや映画などの娯楽が増加し、遊び場としてショッピングセンターや地域のお店の利用が増加。